

2011年(平成23年)4月8日(金曜日) 三版 全 12

津波の音、避難所の放送 聞こえない

障害ある映像作家 宮城で記録

聴覚障害のある映像作家、今村彩子さん(三)＝名古屋市長緑区＝が被災地に入り、耳の不自由な被災者たちの訴えを聞いて回った。

10日 四日市で上映会

ドキュメンタリー作品にまとめ、各地でチャリティー上映会をしていく。第一弾を十日午後一時から三重県四日市市総合会館で開く。

震災発生の二日後、自らがディレクターを務める聴覚障害者向けのCS放送局「目で聴くテレビ」(大阪市)に行かせてほしい」とメールを送った。「マ

スコミで災害情報が連日報じられているが、耳の聞こえないろう者は今どうなっているのか、一向に伝わっていない」。居ても立ってもいられなかった。

三月二十二日に空路で新潟に向かい、そこから車で仙台市へ。沿

岸部の宮城県岩沼市のた。避難所では、高齢のろ 他の報道関係者に対する者夫妻二組を取材し しては身を固くしてい

た夫妻に手話で語り掛地に立ち尽くし、両手けると、被災時の恐怖で顔を覆う場面も撮影や不自由な避難所生活した。今村さんは「力を打ち明けてくれた。メラを置いて背中をさ「接近する津波の音がすってあげたい」とい聞こえず、近所の人にう思いに何度も駆られ避難を促されて助かったながら、二十四日までた「食事などの連絡の三日間、同県各地をのアナウンスが分かって回って取材を続け、字ないので、みんなを見幕と手話で説明するて同じ行動を取るよう「目で聴くテレビ」にしている」。言リポートを送り続け葉が次から次へとあた。

チャリティー上映会 避難所では周りの人では、十時間の取材テに筆談で教えてもらうープを三十分に編集し時もあるが、切迫したた。ろう者は情報弱者状況でなかなか頼みであることを日常的にくいのが現状。「情報 経験してはいますが、災が得られず常に周囲の 害時は命にかかわる。様子をつかがう毎日を そのことをより多くの送っており、疲れ切っ 人に知ってほしい」といっている様子でした」 問い合わせは、元氣 七十代の妻が「津波 の風上映像実行委員＝Eで家は跡形もなく消え メール genkinokaz てしまいましたが。 苦し e@yahoo.co.jp いです」と、自宅の跡 (服部聡子)



ろう者経営の理容店を取材する今村彩子さん＝宮城県岩沼市で(本人提供)

ろう者の「苦しい」伝える